小田原市報

第23号

発行所
小田原市役所
小田原市幸1の138
編集兼発行人
小泉重雄
印刷人
石橋貞吉
定價一部三圓

財政事情について

小田原市長　鈴木十郎

小田原市が此度地方財政委員會から赤字都市として指定されたと新聞に発表され、そのため市民各位に市の財政状態に關して非常な心配をかけていることはまことに遺憾なことである。しかし、赤字都市として指定されたということはおかしな話で事の次第は地方財政委員会が地方自治体の財政のきわめて苦難な状態におかれている実情に対して、何らか対策を講じなければならぬ必要にせまられ、かねて全国各都市に向つて財政実情の調査報告を求めていたが、その報告により、全国二百六十七市の中で、約半数に近い百十三の市が昭和二十六年度歳入に対して一割以上赤字を余儀なくされ、そのうち五十四市は昭和廿六年度二割以上の赤字が出そうな状態にあるというのである。

これに鑑み地方財政委員會は　去る二月十三日附を以つて、財政運営の点につき充分検討し、さらにその適当な対策を樹てるようとの指示を発し、又同時に全国各都道府県知事に対しても、これら財政の事情について指導を強化するようという通牒が発せられた。事実県下に於ても小田原市のみが赤字財政でいるとさえも言われているほどである。またまその見透しが二割を超えるかどうかという点で、我々は事を楽観的に見ることは危険であると考え、最悪の場合を予想して報告書を提出したのであるが、そのため五十四市の中に入つたということであつて、我々はその赤字縮小に最大の努力を払いつつあるから決算の結果が果して五十四市のうちに入るかどうかは今後の問題である。即ち今回の事柄は一小田原市のみの問題ではなく地方自治体全般に及ぶものであり、さらに全国一万余の市町村のうち、大工場があるとか、その他特別の税源を持つものを除いて、大部分が現在赤字財政であるという事に対して、それぞれ各市町村の注意を喚起すると同時に、地方財政委員会が政府自身、地方自治体の財政確立のために、如何なる対策を講ずべきかという課題に対する措置として行つたものと見ることができる。

今回たまたま歳入に對し一割以上の赤字都市として百十三の都市が挙げられたが　外に一割以内の赤字都市も相当あり、又一応予算の上で技術的に赤字をあらわしていない都市であつても、実質的には赤字都市が多数に及んでいるとさえも言われているほどである。

地方自治体がこれほどに赤字に苦しめられているのは一体何に起因するか。　それは単的に言うならば現在の地方税法の欠陥と平衡交付金並に起債の制度に根本的な原因がひそんでいるからである。この原因を除去するために、都道府県市町村の全部を通じて、今日まで如何に声を大にし、眞剣に叫んできたことであろうか。知事会議、市長会議議長会議、町村長会議等の結論は常にこの問題に帰着し、地方自治体死活の問題であるとして強くこれを主張し続けてきているのである。

そこで当小田原市の場合を挙げてこの問題にふれてみるならば、我々は今日まで、如何にして赤字を縮少し得るかについて、最善の考慮をめぐらし、最大の努力を傾けてきたが昭和二十六年度に於て赤字の額が六、七千万円にのぼるであろうことは事実である。本市は昭和二十五年度に四千二百五十四万円を繰上げ充用しなければならぬ実情にあつたがそのうち平衡交付金、起債等の減少による赤字は二千七百万円であり、他は整理によつて縮少し得る税金の滞納であつた。即ち昭和廿四年の地方税法の改正により本市は他の同程度の市に比較して、きわめて有力な財源であつた入場税が県に移され不動産取得税が廃止されたのであるしかもその改正が年度中途に行われたことによつて、当然当初に計上していた歳入に大きな狂いを生ずるという避けがたい結果に追いこまれたのであつた。これが昭和二十五年度の財政に影響を与えたことはいうまでもなく、また同年度に於ては、本市にとつて最も大きな財源である競輪が、鳴尾競輪場に於ける騒擾事件の余波をうけて二ケ月閉鎖を余儀なくされ、ここに歳入の欠陥を生じたばかりでなく、さらにこれを再開するために施設の改善も行わなければならなかつたのである。しかも再開後の成績不良により、ここでも思わぬ歳入減の累加をみたのである。

一方昭和二十二年、二十三年とカザリン、アイオン両颱風の被害をうけ　殊に二十四年のキティ颱風においては、その中心上陸地に当つていたため海岸施設に数十年来の大被害を蒙つた。二十五年は辛うじて災害を免れたと思つたのも束の間、二十六年に至り未だ記憶に生々しい不慮の大火災に見舞われたのである。これら相次いで起つた災厄が本市の財政に大きな打撃を与えないことは有り得ることではなく、この点に関しては何人も首肯するところであろう。幸い大火災に対しては各方面からの同情と市民の援護とにより急速に復興に向つていることは感謝に堪えず、また過去の颱風災害に対してもそれぞれ迅速な措置がとられてきたとはいえ、なお今日過年度災害として復旧事業が継続されつつある状態で、これらに関する事業費のみをとつてみても莫大の額に上るのである。本市が多くの河川を持つことは産業及び観光面等において平素きわめて有用な価値を発輝するものであるとは云え、一朝有事の際はそれだけにまた被害も大きく、この点こそ、他都市と根本的に相違する本市の特殊事情というべきである。

ひるがえつて本市の過去をみると、本市が市制を布いたのは日支事変の最中の昭和十五年であり戦争中並びに戦後の混乱の中を市としての歩みを続け、且つ戦災の復旧を行つて来たのであり、その間到底建設面に充分な施設をなし得なかつたのは已むを得ぬところである。したがつて、積極的な建設を始め得たのは漸く最近二、三年の事に属するのである。即ち事業として、六三制にともなう各学校をはじめ公民館庶民住宅の建設、失業救済、河川道路の改修新設、上下水道の拡張、衛生施設の充実及び消防施設の整備拡充、ことに大事業としての漁港の構築、競輪場の開設並びにその後に於ける施設買收、城趾公園の整備等着々取り上げて来たのであつて、小田原市が西湘地方の経済、産業、文化の中心都市として面目を一新したことは斉しく認めるところであろう。

これらの事業はすべて市民の福祉増進のために一日たりとも放置するを許されないものであり、且つまた、小田原市将来の発展の基盤として可及的速やかに具備することを要請された事業のみである。一、二の例をとつて考えて見れば、本市の六三制にともなう学校施設は殆ど完成して小中学校生徒一人当り〇、七坪の全国基準を上まわり、二部教授を解消、給食場は完備され、教育研究所も他都市に魁けて開設したことに学校図書館の充実は全国屈指と称せられている。これらはいずれもPTAの非常な協力によることは言うまでもないが、市の予算も亦相当多額に支出されているのである。国民健康保険は県下他都市に先んじてこれを実施しているが、市民の深い理解とことに医療担当者各位の協力によつて早くも全国有数の成績を挙げている。また社会政策面に於ける失業救済も他に比し、はるかに多数の枠を獲得して基準以上の実績を示し、庶民住宅もその建設において他の同程度の市をはるかに凌駕しているのである。

しからばこれにたいして市民の税の負担は他都市以上に過重であろうか。　廿四年度県下同程度の市においては高率の標準を採用して賦課していたところさえあつたが、本市は常に市民の担税力を考慮し制限率以上には課することをせず、さらに二十五年度以後の税制改革においても標準課税率以上に引き上げたことは絶対になかつたのであつて、常に最低線を堅持しつつあるのである。

もちろん放慢に流れすぎて收拾すべからざる狀態に陥ることは厳に慎まなければならぬのであるが　市民の幸福と将来の発展につながりしかも一日もゆるがせに出来ぬ事業の山積を目前にして地方自治体が営利団体にあらざる限り、赤字の危険のみに躊躇して拱手傍観することが果して策を得たものであろうか。どこまでも比重の問題であるとはいえ少くとも赤字克服の見透しの上に立つならば、積極的な事業の遂行もまた敢然となすべきであると考える。これらの事業は直ちに市民生活の向上を約束し、将来市の敗政の上に大きく寄与すべきは当然の帰結と考えるのであつて、市民生活の萎微涸渇するところに何で市将来の発展が期待できるであろうか。このような見地に立つ時黒字が健全であり、赤字が不健全という人があるとするならば、私は直ちにそれには承服し得ないのである。

しからば赤字についてはどのような処理が考えられるか　本年度の赤字がかりに六、七千万円にのぼるとしても、この中には税金滞納分が含まれているので純然たる赤字は四、五千万円と推定される。競輪收益は本年度一般会計へ三千三百五十万円繰入れられておりしかも競輪場買收費は年度内に完済出来ることになつている今回開催回数調整の指示によれば来年度小田原市の開催回数は八回となるのであるが災害都市という事情により特に二回を増して年十回開催の見透しもつき現今の売上狀況より推して二十七年度の競輪收益も相当度の期待は出来ると考えられるしたがつて、この競輪收益のうちより相当額を赤字補塡にも充てられるわけで今回地方財政委員会の赤字を三年以内に解消せよという指示に対しても明るい見透しを持ち得るのである。しかも一方において、大工場の招致等にも最善をつくしつつあり、本年大同毛織を招致して、現在その建設が進められつつあることは周知のことである。さらに今後も引続いて工場招致に努力したいと思つているがこれも将来の市勢の伸張と併せて税源も確保したい一念に外ならない。

我々は現在時代錯誤の中央集權的な考えに依存しようと考えるものではないが、少くとも現行の制度のもとにあつては、現実に中央よりの平衡交付金、起債、国庫補助等が地方財政の大きな部分を占め、例えば小田原市の場合二十六年度総予算四億円に達する経費を必要とするに対して、市の税收入はその半分にも充たぬ一億五、六千万という実狀である。したがつて中央政府において、正しい地方の実狀を把握し適切な施策の確立によつて一日も早く都市財政建直しに関する根本的対策を樹立する必要があり、これが要望を今日まで叫び続けてきたのであるが、今後もさらに一段とこれを強化推進してゆく考えである。

地方分權の問題に關しては多年我々が要望してきたところであり　今日漸くその線に向い行政各方面の仕事が順次地方に移譲されつつあることは慶びに堪えないが、これら次々に公布される法律は財政的の裏付けのない限り徒らに地方自治体に義務のみを強いる結果となり事務量は増加の一途を辿りこれに要する人員は法律に定められた適格者や定員増加を余儀なくされる現狀であり、経費削減のための人員整理などは軽々に行い得ないわけであるしかも公務員法に準拠するベースアップ等は吏員の待遇と福祉を思えば当然為さざるを得ないところであつて、地方財政は勢い膨脹せざるを得ない狀態にあり、その間にあつて事業を行うことは根本的な無理があると云わなければならない。

かくはいうものの我々は冗費を省き事業も重点的に考え極力財政の緊縮を図るべきは当然であり又この方針を堅持することに努力する決意を有するものである。　しかしながら徒に消極的になる必要はないのであつて都市発展のためこの際建設的に進むべきは進み、しかもその間飽くまでも市財政の建全なる運営と確立を期したいと思うのである。この点については市議会においても平素より格段の努力を払われつつあるところであつて今後さらに一段とその協力を得ることにより大小田原市建設に邁進したいと思うのである。市民各位は以上述べたところを理解され、今後一層の協力を寄せられるよう切に希望する次第である。

小田原市の人口推定

昭和27年2月1日現在

世帯数		16.047
人口		79.489
出生	（1月分）	162
死亡		52
転入		572
転出		436

国民の祝日

元日	一月一日
成人の日	一月十五日
春分の日	三月二十一日
天皇誕生日	四月二十九日
憲法記念日	五月三日
こどもの日	五月五日
秋分の日	九月二十三日
文化の日	十一月三日
勤労感謝の日	十一月二十三日

市議會一月臨時會

小田原市議会臨時会は一月十一日午後二時十七分開会し、会期を一日と定め、次の議案を上程、原案通り承認し、午後二時二十六分閉会した

臨時会議案

一、専決処分の承認について、（昭和二十六年度小田原市歳入歳出追加更正予算）

消防本部

火災の「特別予防査察」を実施中

火災の原因はかまど、風呂の焚口、煙突など構造の不備によるものが多いそこでこれに起因する不測の災害を未然に防止しようと、消防本部では二月上旬から当分の間、全市一円にわたつて戸別的にこれらの点についての詳細な調査と指導を行つています。皆様の全面的な御協力を御願いします。

ガソリンなどの危険物の取扱いに注意しましょう

ガソリンなどの危険物を一定量取扱う業者には、危険物取扱主任者がいなければ扱えないことになつています。（消防法、小田原市危険物取締条例）そして去る一月には三日間にわたつて、市内の交通業者、塗料業者、油類販売業者等の危険物取扱主任者拾数名の参集を求めて、消防法、危険物取締条例の解説や危険物取扱上の知識涵養の講習会を開きました。

この危険物取扱主任者には許可制を布いておりますので、消防本部長の許可を得て初めてその地位に就くことになりますがほんの少量の取扱に対してはその必要もありませんし、勿論違反にもなりません。だからといつて危険物についての知識や関係法規を無視してよいというのではありません。くれぐれも危険物の取扱についてはお互いに注意しましょう。

なお危険物の取扱量その他お解りにくい点は消防本部に御問合せ下さい。

農産

農家生活の改善のために「家庭学校」を開設

去る二月四日より六日まで久野公民館で同地区婦人を対象に県保健所、農業改良普及員等の指導のもとに家庭学校を開講しました。

聽講者六十数名は農家の家庭生活の基礎的な知識と生活改善について習得し、共々に研究する機会を与えられました。

主な科目は、栄養知識と調理法、新しい作業衣と下着類の作り方更に衣服の更生から染色、洗濯の方法、住宅の改良、その他育児保健衛生にいたるまで、農村民主化のために必要なものばかりでした。市は次いで二月二十一日二十二日の二日間、桜井公民館でほぼ同様科目で家庭学校を開講します。

農民の民主化推進は、明るい能率的な農家生活、殊に主婦生活の改善に力点が置かれますので、この学校が農家の主婦達に喜ばれ、家庭生活の改善に大いに役立つことでありましよう。

小田原市畜産会の設立

小田原市畜産会は去る一月三十日午後一時より中央公民館に創立総会を開催し、正式に発足することになりました。この畜産会は市内の家畜、家禽を飼養するものとこの会の趣旨に賛同するものをもつて組織し、畜産振興に寄与するための団体として設立されたものであります。

なお、本総会で次の通り役員が選出されました。

小田原市長　会長
鈴木　十郎
経済常任委員長　副会長
野島　功藩
〃　宮川　伊佐
理事平野亀之助外三一名
監事奥津隆助外二名

税務

市税完納者への報奨

かねて発表しておきましたとおり、本年度も昨年度と同様、納税について御協力下さつた皆様方の御骨折に報いるため市民税、固定資産税を通じて各納期内完納者に、抽せんで次のような報奨物品を差上げます。

抽せんの期日や方法、抽せん会場、報奨物品の引換日等は三月中に市報、掲示板その他で御知らせ致します。

等級	報奨物品	本数
一等	ミシン	一本
二等	ラヂオ	三本
三等	洋傘	一〇本
四等	風呂敷	一〇〇本
五等	手拭	残り全部

商工水産

砂糖の配給統制撤廃について

砂糖の配給統制は三月末日限りで撤廃される予定なので、三月分の配給については次の通り取扱うことになりました。

一、購入券の有効期間

（イ）家庭用及び乳児用砂糖購入券……三月末日限り

（ロ）妊婦用砂糖購入券……三月五日限り

二、購入券の取扱期間

（イ）転入　出生等によつて新に家庭用及乳児用購入券を発行することは三月十日以降停止

（ロ）妊婦用購入券の発行は二月二十日以降は発行を停止

三、注意事項

右の各期間中にそれぐ〜手続して購入されませんと無効になります。

公営事業

第二回市営競輪の成績

本年第二回小田原競輪第一日は、前夜の降雪に災されたが、除雪に懸命の努力を重ねて決行し引つづき六日間にわたり予定通り開催した。

この月の競輪は宣伝が一段と徹底し特に静岡方面のファンの増加を見、一方当競輪場独特の中穴配当が、日と共に人気を高め、冬枯れの二月競輪にも拘らず、売上は最高記録を示した。

収支概算次の通り

◎収入	
車券売上高	九四、一〇〇、一〇〇円
入場料	三六四、一三〇
未払金収入	九八、二五〇
事故収入	六〇〇
選手申込参加手数料	二、九〇〇
売店貸家料	三〇、〇〇〇
雑収入	二七、四三七
計	九四、八〇二、四九七
◎支出	
払戻金	七〇、六〇三、五七〇
振興会交付金	二、八三三、一六六
国庫納付金	四、三三、八六三
認承経費	七、七六、二八五
非認承経費	九六八、六七〇
事故金	四、三一〇
計	八六、四五九、七六四
◎差引利益金	八、三四一、七三三

警察本部

密造酒に御注意を

本年度の清酒、合成酒、焼酎、ビール等の醸造高は政府の案によれば昨年度より約二割強の増石となつております。これは密造酒駆逐のよい方法ですが一方取締りの面でも税務署や警察ではこれが対策をたて、今からそういつた不心得者に監視の眼を向けています。しかし、ただに税務署や警察の力だけでなしに、皆様の御協力がなくては防犯の完全を期すことはできません。

密造酒を造つたり、飲んだり、所持しておりますと、酒税法に違反することは勿論、食糧管理法、食糧緊急措置令、物価統制令、刑法等の処罰があります。

密造酒を飲んだばかりに盲目や半身不随になつたり、遂には尊い生命まで失う結果を招いた悲劇が数え切れないほどあります。

そこで増石と取締りの両面から密造酒の掃滅を期していますので皆さんの御協力をお願いします。

廣報委員会版

小田原市広報委員会
小田原市役所内

国際連合協会神奈川県本部小田原支部を結成

国際連合協会神奈川県本部小田原支部結成大会は去る二月十一日午後一時から中央公民館で開催されたが内山県知事を初め来賓多数出席の上、参集者三百余名を数え、支部規約、事業計画、予算等を審議決定し役員の選任を行い、鈴木市長を支部長に推せんの後午後四時閉会。続いて内山知事の講演と、ニュース、国連の映画を公開し盛況裡に散会した。

席上、鈴木支部長は次の挨拶を行つた。

御挨拶を申し上げます。

本日玆に、日本国際連合協会神奈川県本部小田原支部の結成大会を挙行いたしました処、公私御多端の折柄にも拘らず、来賓諸賢を初め、発起人として多数の方々の御来会を得ましたことは、私の深く喜びとする処でありまして、ここに厚く御礼を申し上げる次第であります。

御承知のように国際連合は、昨年十一月六日よりパリーにおいて、本年度の総会並びに各理事会及び委員会が開かれて、世界平和の確立と、全人類の幸福のために、真剣な努力を重ねつつありました処、相当の成果を収めて、去る五日満三ヶ月ぶりに閉会となつたのであります。この総会における大きい目的の一つであり、且つ全世界から最大の関心と期待とを持たれた、自由主義国家群と、これに対立する他の国家群との間が、ついに解けるに至らなかつたことは誠に遺憾なことでありました。

然しながら国際連合は今後、あらゆる手段と方法によつて、更に話しあいを進め、何れは何等かの打開の方途を見出し、平和への途を切り開くために、あらゆる努力が重ねられて行くでありましようし、全世界の人々は、特に講和条約の発効を目前に控えており、われわれとしては、一層この感を深くするものであります。万一、二つの世界が不幸にして戦うようなことが起きた場合、無防備のわが日本は、忽ちにしてその禍中に巻き込まれ、一たまりもなく壊滅するかも知れないことを考えるとき、この国際連合の辛棒強い努力に感謝しられないのであります。

その成功を祈らずにはお申すまでもなく国際連合は一つの世界国家的な性格を持つものではないのであります。利害関係が必ずしも一致していない国々の連合であります。

この市報第二十三号は記事の都合その他の理由で発行が大変遅れていることをおことわり致します。

なお、国際連合常識【二】は都合により今回は休ませていただきます。

おことわり

争が起きるのも止むを得ないことでありましようし、個人の社会生活に競争があると同様に、おのおのの国が生きるためにも、またこのような事態が起きるのは当然の帰結であります。そこで増石と取締りの両面から密造酒の掃滅を期していますので皆さんの御協力をお願いします。

ここにおいて何とかして戦争の惨害から世代を救い一層大きな自由の中で社会的進歩と、生活水準の向上とを促進するために、一、九四五年即ち終戦の年十月に、国際連合が誕生し、今日までの六カ年半の間において、数多くの業績を残しておるのでありますが、そのうち最も卑近な一つの例として朝鮮問題がありますが、御承知のようにわれわれには、到底考えられないような辛棒強さを以て、停戦交渉から休戦会談と折衝が続けられ、遠からず一応の解決は見るでありましようが、動乱勃発以来、共産軍側は、いわゆる人海戦術によつて、おびただしい死傷者を出しておりますが、国連軍側においても相当数の戦死傷者と、莫大な戦費を投じているのであります。

皆さん、朝鮮は国際連合加盟国ではありません。しかるにも拘らず朝鮮に対して何故にこのような大きい犠牲を払つているのでありましようか。

これは即ち加盟国でなくても、他から侵略され、それが世界の平和を攪乱する場合においては、武力を用いてもこれを鎮圧するという国際連合の原則に従つて、かくも尊い血を流し、動乱の拡大を喰い止めて、侵略の終結に努力しておるのであります。

また経済面における事例を一つ挙げますならば、昨年八月わが国は国際小麦協定に正式加入が許され、向う二ヵ年間にわたつて、毎年五〇万トン宛の小麦を、協定価格で買れる保証を与えられたのであります。この協定価格は市価に比べますと一トンにつき約二十三ドルの開きがありますので五〇万トンでは一千万ドル余り、邦貨に換算致しまして年間約三十六億円が節約できるのであります。これはいづれ何かの形において、われわれの上にプラスになる訳であります。

このように国際連合は絶えざる活動によつて、世界人類の幸福に偉大なる貢献をしておるのでありますが、然らばその前途はどうでありましようか御承知のリー事務総長は次のように述べております。

「国連に味方し援助するすべての人達が、声を大にして応援を送つてさえくれるならば、平和に対する国連の影響力は、多くの人達が考えている以上に強いものとなる」

更に同氏は

「もしも国連がなかつたならば、平和への希望も大国間の妥協の希望もほとんどあり得ないであろう」

と述べました。

われわれはこのリー氏の言葉を、深く味うべきであると存ずるのであります。

国際連合は過去六年半の間において、数多くの試練を経て次第に強固なものになつてゆきつつありますが、その前途にはまだまだ幾多の困難と危機が、待ち構えております。

併し全人類の心からの支援と協力がある限り、いよいよ強固なものとなつてゆくでありましようしまたそうしなければならないと存じます。

以上大略申し上げましたように、国際連合は「人類はかくありたい」というような単なる理想や、希望ではなく、悲惨なる戦争の脅威の現実から生れた、世界人類の真の叫びによつてつくられた、生きた世界機構であり、しかもわれわれの日常生活に堅く結びついた、幸福への綱であります。従つて世界の人々は一人残らずこれを支持し、これに協力すべきは当然であると存ずるのであります。

以上国際連合について大略申述べましたが、次に当支部の母体である、日本国際連合協会について簡単に申上げます。

同協会は世界の平和愛好国と手を結んで、国際連合を普及し、その目的達成に協力する民間団体として生れ、その支部も全国では沢山の数に上り、今続々と結成されつつありますが、一体協力とはどんな形で、どうするのか、これを一と口に申し上げれば、国際連合を支持することを、国民の与論として盛り上げてゆくということであります。

そのためには先づ、国際連合の原則、目的、事業などを普及し、国民の一人々々にこれを理解納得せしめることが当面の仕事であり、国民全部が国際連合の中にあるという自覚を持つように運動を起して、それぞれの専門機関の活動に現実に協力し、国際連合をして眞に世界の平和機構たる力を持つ裏付けをすることがここに申上げる協力であります。

この重大使命の下に、昨年十月当小田原支部の結成を、企図いたしました処、各方面の御支持を得ましたので、先ず市内各方面の方々、百十五名を準備委員に御委嘱申し上げました処、御快諾を得ましたので、十一月十二日準備委員会を開催して本日御提案申し上げる諸議案その他の御審議を願い、特に発起人の範囲を定めるに当りましては、委員会の総意によつて選考委員を設け、慎重御協議を頂いてこれを決定した結果、皆様八百六十八名の方々を発起人に御委嘱申し上げたのであります。皆様方からは諾否の御回答を頂くのが本来でありますが、いろいろの関係から、これを省略致しましたことを、この際御諒承願いたいと存ずるのであります。また準備委員の方々は、そのまま発起人代表に切り替わることの御承諾も得ましたので、準備万端を整え、同月三十日には結成大会挙行の運びとなつておつたのでありますが、同月二十八日未明の万年一丁目の大火のため、止むを得ず延期致したのであります。この不幸な罹災も国や県を初めとして各方面からの、厚い御同情によりまして救護、援護も円滑に行き渡り、復興も順調に進み、一方講和条約の発効も、いよいよ間近いものと予想されますので、この機に当支部を結成して、国連協力の力強い組織体制を整えようとするものであります。

どうぞ皆様方におかれましては、当支部結成の眞意を、市民全般に御吹聽下さいまして、八万市民が挙つて御支持と、御協力をいただけますよう、格段の御配慮をお願い申し上げる次第であります。

以上簡単でございますが私の御挨拶を終ります。

3月　小田原競輪

8	9	10
11	12	13